

# 令和4年度第1回ISO上層委員会報告会

## 第117回 ISO理事会 報告



一般財団法人日本規格協会  
システム系規格開発ユニット  
中川 梓

# ISO Council (理事会)

## u ISO理事会とは

- ρ ISOの中心となる統括組織
- ρ 構成：ISOメンバー機関代表20名、ISO役員、政策開発委員会議長 (CASCO、COPOLCO、DEVCO)
- ρ 議長：ISO会長または副会長(政策)
- ρ 年3回の会合
- ρ 財務監事、TMBメンバー、政策委員会議長の指名

## u 理事会メンバー機関

### グループ1

AFNOR(仏)(2023)  
ANSI (米)(2023)  
BSI(英) (2024)  
DIN(独) (2023)  
JISC(日)(2022)  
SAC(中) (2022)

### グループ2

BIS(インド) (2024)  
KATS(韓) (2022)  
SCC(カタ) (2022)  
SA(オーストラリア) (2024)  
NBN (ベルギー-) (2023)

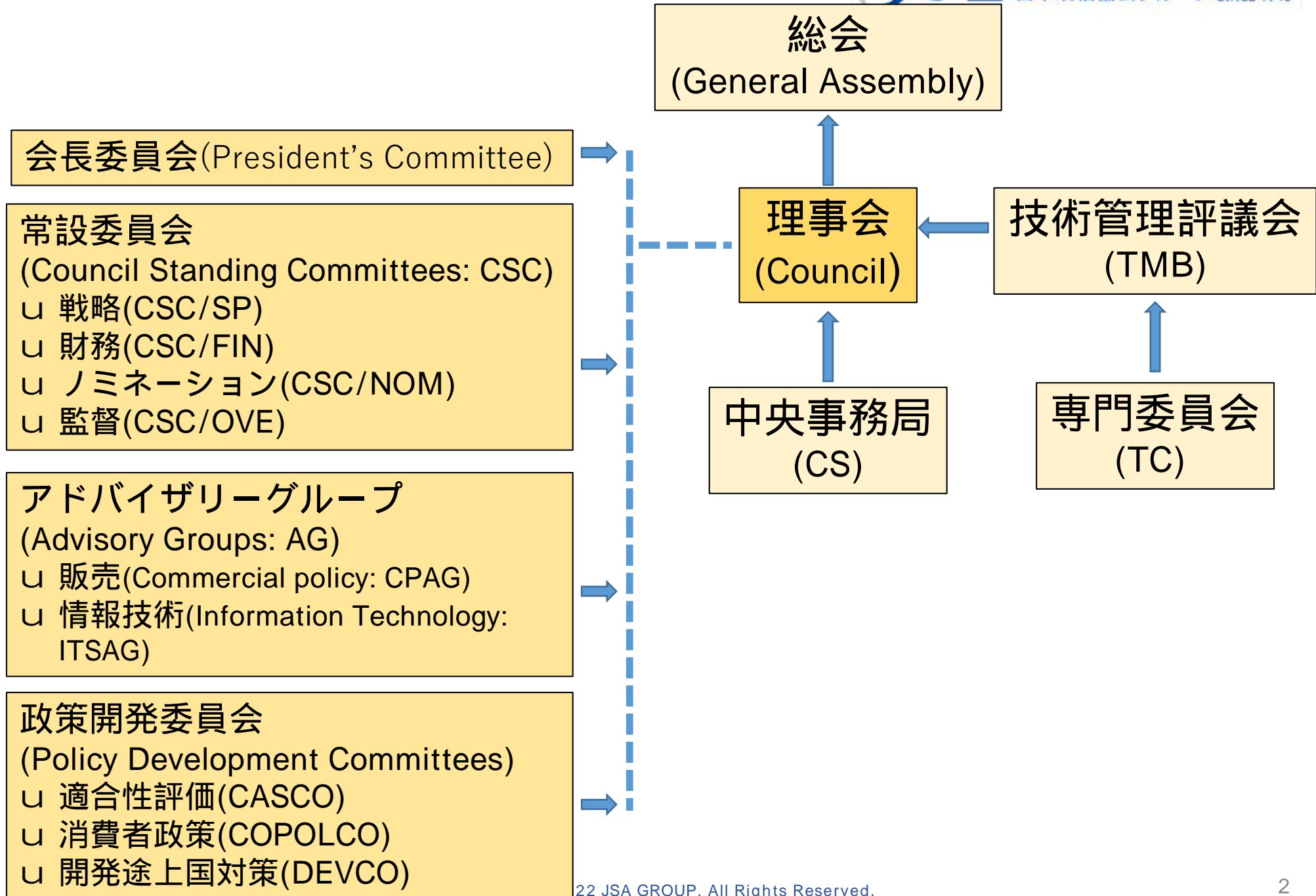
### グループ3

ESMA(アラブ首) (2022)  
DSM(マレーシア) (2024)  
DS(デンマーク) (2023)  
SABS (南ア)(2023)  
TSE(トルコ)(2024)

### グループ4

KEBS(南アフリカ) (2024)  
INACAL(アンゴラ) (2022)  
IBNORCA(ボリビア)(2023)  
SAZ(ジンバブエ)(2023)

# ISO Council (理事会)



# 第117回 ISO理事会 及び 関連会合

2022年2月15日	
10:00-13:00(日本時間 : 18:00-21:00)	会長委員会
2022年2月16日	
12:30-13:30(日本時間 : 20:30-21:30)	CSC/NOM
2022年2月17日	
12:30-13:30(日本時間 : 20:30-21:30)	CSC/OVE
2022年2月18日	
12:00-15:00(日本時間 : 20:00-23:00)	CSC/SP
2022年2月21日	
12:00-15:00(日本時間 : 20:00-23:00)	CSC/FIN
2022年2月22-24日	
12:00-15:00(日本時間 : 20:00-23:00)	理事会

## 第117回 ISO理事会

- n 理事会及び関連委員会の会議が、2022年2月15日から24日にかけて、ウェブ会議で開催された
- n 当初、ハイブリッドでの開催を予定したが、オミクロン株流行を受け、バーチャルに切り替え
- n 時間的な制約等を考慮し、議事を重要/緊急の項目に絞り（カテゴリB）、会議中は議論/確認のみとし、決議は行わず、後日電子投票を行い、正式に決議する。その他の項目（カテゴリA）は情報提供のみ、あるいは必要な場合、電子投票を行う
- n 本資料では、理事会での主な議論、決議事項をご報告する

### <主な報告事項>

- n 社会情勢 - 景気見通し、COVID-19感染者数、COP26、ウクライナ情勢等
  - 社会に蔓延する不信感(distrust)と恐れ(fear) – Edelman Trust Barometer 2022
- n 気候変動 - 急速な広がり、ロンドン宣言
- n COVID-19の影響/対応
  - n TCやガバナンス活動への影響
  - n ISO/CSの事業継続と財務
    - n ISO 22301:2019に基づく事業継続計画 (BCP)を実施。
    - n スタッフは1-3-1で対応 (テレワークと出勤の組み合わせ)
    - n 財務状況は健全 (6203kCHF剰余)
- n ITインフラの停止
  - n 1/26発生。サイバー攻撃ではない
  - n 影響は限定的
  - n 原因究明中、再発防止に努める

## 議題2 ~ COVID-19の影響及び事務総長報告 その2

### <主な報告事項>

- n ISO戦略2030 – 実施計画 / 測定枠組みに関する報告
  - 大きく進捗、メンバーの貢献が不可欠
- n サステナビリティプログラム
  - n サステナビリティへの貢献を強化、見える化（いくつかの取組みを統合的に調整した形で）
  - n ロンドン宣言への対応（アクションプランの作成）
- n SMART規格への対応
  - n IECと協力し、ビジネスモデル、ユースケース、技術的ソリューションの3分野で検討
- n 主な活動
  - n メンバーとのコミュニケーション、地域グループの会合等への参加
  - n 他の国際組織との関係強化、特にIEC

## 議題3.1 ~ ISO戦略2030の実施

### a, b) ~ 2021年Q4報告 実施計画及び測定枠組み

#### < 背景 >

- n ISO戦略2030の実施計画、測定枠組みを2021年1月に承認
- n 2021年実施計画には、10のプログラム及びその下に35のプロジェクト
- n 測定枠組み－3つのゴール、6つの優先事項に対し、達成状況を測定するためのもの。ゴール/優先事項に対し、各2つの指標を定め、尺度、ターゲットを設定

#### < 主な内容 >

- n 開始から1年たち徐々に進行。35プロジェクトのうち、7つ終了。計画中、情報収集中のものもあり。ISOメンバーの関与/協力が重要であることが強調された
- n 測定枠組みは、まだデータ収集が十分ではないものが多く、ターゲットの設定や、データの分析等、さらに議論が必要。次回会合(6月/対面)でワークショップを開催予定



# (ご参考)実施計画 ~ 10プログラム / 35プロジェクト

ISO Digital Learning Solutions		
ISO Onestop - LMS	ISO DLS Content Plan	ISO DLS Toolkit (済)
ISO SMART		
Use cases	Business model	Technical solutions
Digital Collaboration		
Accelerate virtual standard development process(VSDP)	Virtual and hybrid Governance meetings (済)	Virtual and hybrid ISO/CS led events
Online Standard Development		
Data Connect		
API Identities and roles	API: Ballots	API: Meetings
Improved Development Processes		
Optimize deliverables	Committee strategy management	Change the perception, ISO can be fast (when needed)
Customer matters		
Customer (re)Discovery	User's needs policy and strategy	User's needs integration

# (ご参考)実施計画～10プログラム/35プロジェクト

Future Challenges and Market Needs		
Foresight framework implementation	System approach	
Diversity and Inclusion		
ISO Gender Action Plan (済)	Next Gender Action Plan	ISO Young Professional Programme
LMD programme (済)	Stakeholder categories	ISO/CS action plan
Accessibility action plan	Accessibility action plan	
Capacity Building Funding		
Funding policy (済)	Enhance data collection	
Benefits of Standards		
Macro-economic benefits of standards methodology (済)	Summary of members' research on the economic benefits of standards (済)	Research review – impacts of standards
ISO Research Grant 2021 – standards supporting SDGs	Data divulgation	

## (ご参考)測定枠組み

<b>ゴール1：どこでも使われるISO規格</b>	
1年間のISO規格類の販売数と国家採用数	ISO.orgへの訪問数
<b>優先事項1.1：ISO規格の便益を実証する</b>	
規格の便益に関する資料を備えたオンライン参照ライブラリがあるか	会員が利用できる規格の便益に関する資料の数
<b>優先事項1.2：使用者のニーズを満たすためにイノベーションを行う</b>	
ユーザーの経験に関する情報を会員から収集するメカニズムを作成	ISO会員及びISO/CSによって実施されているユーザーが関与しているプロジェクトの数
<b>ゴール2：世界的なニーズを満たす</b>	
発行済ISO規格類の開発期間の平均値及び中央値	新しいTC、PC、又は業務項目の提案を提出している国の数
<b>優先事項2.1：ISO規格を市場が必要とするときに提供する</b>	
規範的な非IS規格類（TS、PAS、IWA）の年間発行数のISに対する比率	選択した期間内に開発された規格類の割合

## (ご参考)測定枠組み

<b>優先事項2.2：今後の国際標準化の機会を捉える</b>	
ISO/CS及びISO会員によって特定され、ISO内で回付及び評価された新規/戦略的トピックの数	戦略的/調整活動として、標準化ロードマップを開発及び実施するためのプロセスの作成
<b>ゴール3：すべての声に耳を傾ける</b>	
性別及び国別（途上国/先進国及び地理的地域）のガバナンス職及び委員会リーダーの人数	国別のPメンバーシップの数（地域の内訳、途上国などを含む）
<b>優先事項3.1：能力開発を通じてISO会員を強化する</b>	
目標を達成するAPDC成果/中間結果測定値の%	途上国によるエキスパート、Pメンバー、委員会リーダー、及びガバナンス職の数
<b>優先事項3.2：ISOシステムにて包括性と多様性を促進する</b>	
年齢、性別、国（途上国/先進国及び地理的地域）及び利害関係者のカテゴリー別のエキスパート数	1年あたりのバーチャル開催の委員会及びWG会議の割合（ハイブリッドを含む）

## 議題3.2 ~ ISO SMART 進捗報告

### < 背景 / 経緯 >

- n 機械可読規格(Machine Readable Standard)に関するTMB戦略諮問グループを設置(2018年)。 最終報告(2020年6月)で、SMART(Standards Machine Applicable, Readable and Transferable)と呼ばれる新しい種類のISO製品の、あらゆる側面への影響に関し関係者を巻き込んだ検討が必要であると提言
- n 今後の戦略的方向性を検討するため、IEC等の利害関係者も招き、ワークショップを実施(2021年2月)
- n SMART Steering-Group(SMART-SG)を設置(2021年4月)。プログラムの全体的な方向性、コミュニケーションに関し審議、理事会に助言。IECとも密に連携。
- n 以下の3つのサブグループを設置し検討開始
  - n 「ユースケース」
  - n 「ビジネスモデル」
  - n 「技術的ソリューション」

## 議題3.3 ~ ISO SMART 進捗報告 その2

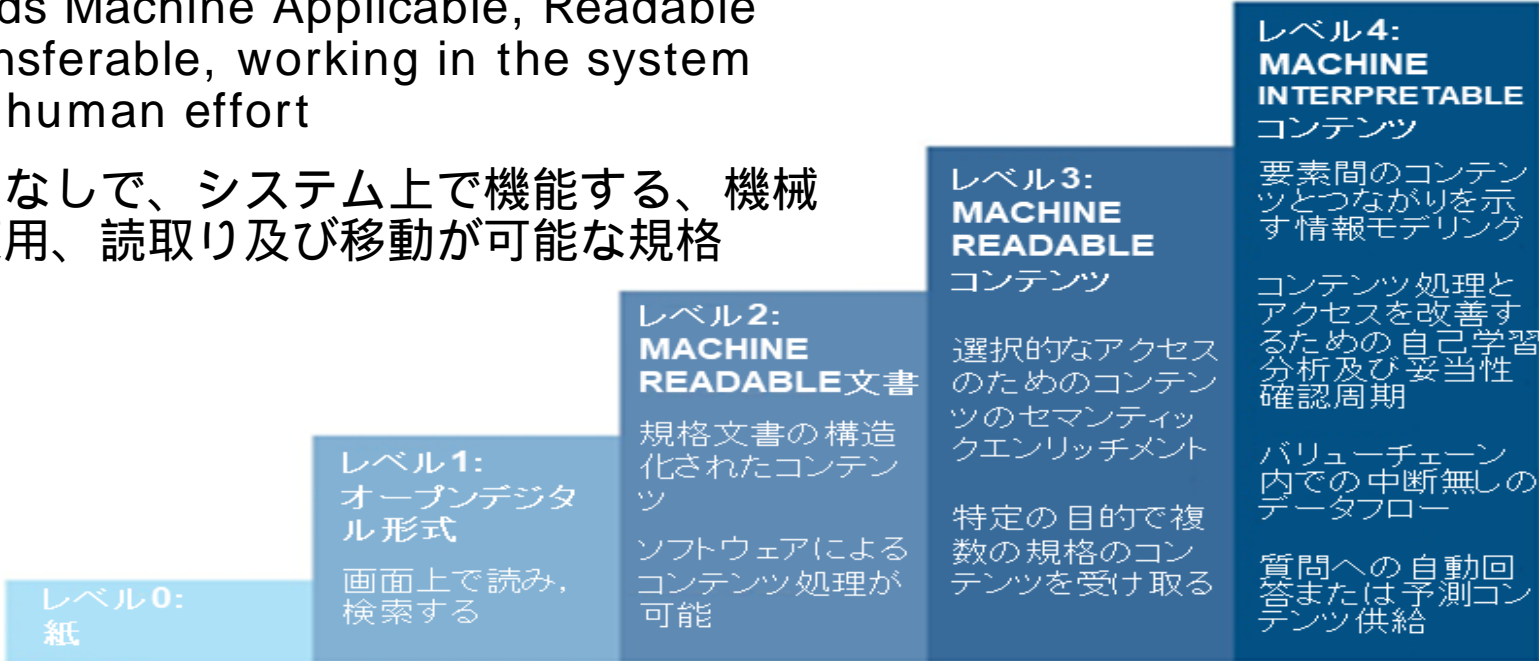
### < 現状 / 主な意見 >

- n IECとの協働体制を整備（次頁図）
- n 2024年までに、ビジネスモデルの特定と新しいプロセス定義を行うことを目標
- n SMARTに関するISO/IEC共通の明確な定義が必要
- n SMART Level4に、いつどのように到達するかのビジョンが必要。多くの国は未だレベル1
- n SMART実施レベルが国によって異なるので、コミュニケーション、教育・啓蒙が重要
- n ISO/IEC Directives及びPOCOSA改訂が今後必要になる
- n 本事業を支援するために一時雇用（1年間）を行うための費用（135kCHF）を承認

# < ISO SMART >

Standards Machine Applicable, Readable and Transferable, working in the system without human effort

人的労力なしで、システム上で機能する、機械による適用、読取り及び移動が可能な規格

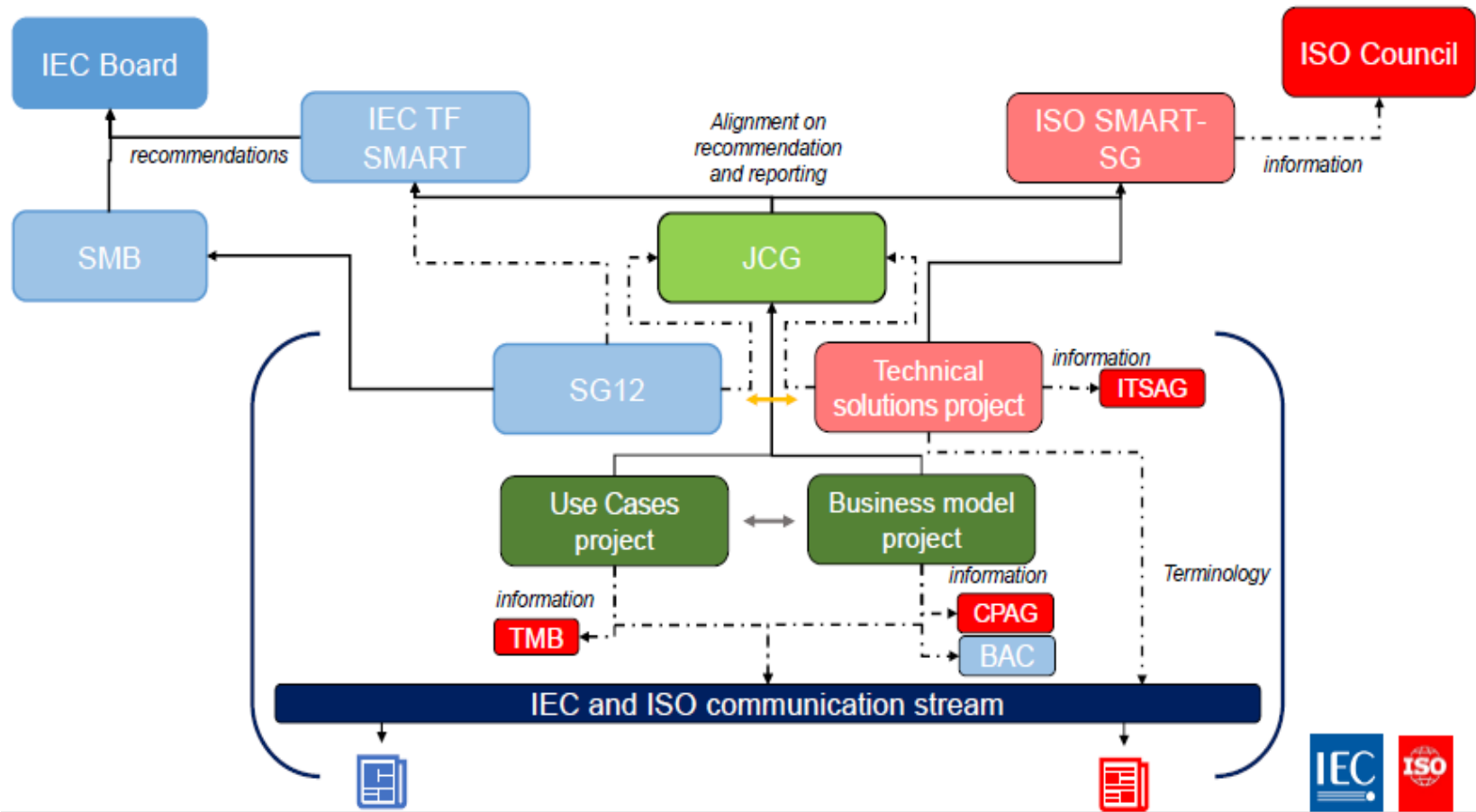


機械がもつ機能

機械がもつ制限

基本的な検索紙	単なるタグ付け 単純検索 よく構造化された文書 ソフトウェアによる文書の解析が容易にできる	タグ付けのセマンティック記述 意味があり、定義付けされた要素の高度検索 図、公式、実行コードといった要素を見つけ、処理する基本能力	オントロジーはアドレス可能要素のつながりのために存在する 機械は特定のコンテンツ内の要素を見つけ、使用することができ、同コンテンツでオペレーションを実行することができる
機械による相互作用は不可能	機械による相互作用はほぼ不可能	検索結果または解析されたコンテンツの理解はできない	要素に脈絡を持たせるためのオントロジーが欠如している(例: 公式の発見及び使用は可能だが、これが有用であるコンテキストを理解していない)

# The resulting framework





## 議題3.3 a) ~ 持続可能性プログラム(Sustainability Programme)

### < 背景 >

- n ISOはパリ協定、国連SDGs等の達成を支援すると表明
- n 国連は2020年に「行動の10年」(Decade of Action)をスタートさせ、2030年までのSDGs達成に向け、取り組みの加速を呼びかけ
  - n 行政、産業界、消費者が喫緊の世界的課題に向かうにあたり、国際規格は、効果的なツールであり、ISOはこれまでもいくつかの取り組みをしてきた
- n 持続可能性はISO戦略2030の重要な要素
  - n 持続可能性の3つの柱（経済発展、社会発展、環境保護）は、ISO戦略2030でも変化の原動力として特定
- n COP26を受け「ロンドン宣言」（2021年9月）
  - n 国際規格の重要な役割（COP26：国連事務総長アントニオ・グテレス）
    - n ネットゼロに向けた取り組みを測定・分析するための規格提案に取り組む専門家グループを設置
    - n 温室効果ガスの排出削減やネットゼロ目標に関し、言葉の意味や評価基準が異なるため、信頼性が損なわれ、混乱が生じており、定義や測定方法を統一する必要がある

## 議題3.3 a) ~ 持続可能性プログラム(Sustainability Programme) その2

### < 概要 >

- n サステナビリティユニットを設置 (2022年1月)
  - n ISOは「持続可能性」に志高く (high ambition) 取り組む
- n 実施計画に「持続可能性プログラム」を設定し、「気候変動」及び「多様性&包括性」に取り組む
  - n 新規プロジェクト、現行のプロジェクトを整理統合
  - n サステナビリティユニット管轄で推進
- n 理事会メンバーは賛同するとともに、以下のコメント
  - n TCやISOメンバーの活動や他の機関との協働とリンクさせるべき
  - n コミュニケーションと情報共有が重要

### 持続可能性プログラム

#### 気候変動

- ロンドン宣言アクションプラン
- ISOネットゼロ移行

#### 多様性&包括性

- ジェンダーアクションプラン
- 若手専門家プログラム
- ISO/CS D&Iアクションプラン
- ステークホルダーカテゴリの評価

## 議題3.3 b) ~ ロンドン宣言アクションプラン

### < 背景 >

- n 「ロンドン宣言」～ISOの気候に関するコミットメント。ISO総会(2021年9月)で承認
  - n <https://www.iso.org/ClimateAction/LondonDeclaration.html>
- n ロンドン宣言で、規格開発 / 改定に対し以下の2つの目標を設定
  - n 気候科学と関連の移行を検討する
  - n 市民社会、気候変動に最も脆弱な人々の関与を促す

### < 概要 >

- n ロンドン宣言に対する取り組み
  - n フェーズ1 (2022 2023年)  
気候変動分野でのISOの立ち位置を高める。次のフェーズに向けての準備期間
  - n フェーズ2 (2023 2025年)  
気候変動に対処する国際規格のグローバルプラットフォームとしての立ち位置を固め、体系的に取り組む

## 議題3.3 b) ~ ロンドン宣言アクションプラン その2

### < 概要、主な意見 >

- n ロンドン宣言アクションプラン (フェーズ1:2022 2023年)では以下の3分野に焦点をあてる
  - n 規格開発
  - n 戦略的パートナーシップ
  - n メンバーの巻き込みとコミュニケーション(認知とブランディング)
- n 予算 kCHF 400
- n ISOメンバーから2名の出向者を募る
- n 理事会メンバーからは、以下のコメントあり
  - n 動きの速い分野なので迅速に動く必要がある
  - n 気候変動に対処する規格開発を急ぐことに加え、規格使用者を増加させることも急務
  - n 気候変動に関連する作業を行うTCは多数あり、どのようにTCにメッセージを出していくかが課題

## 議題3.3 c) ~ ジェンダーアクションプラン

### < 背景 >

- n UNECEの「ジェンダー対応規格及び規格開発に関する宣言」に署名(2019年9月)
- n ジェンダーアクションプラン(2019-2021)を策定。そこから学んだことは
  - n 規格開発に女性参加がもっと必要
  - n 規格はジェンダーニュートラルではない / 必ずしも同等の参加が得られていない
  - n SDG5を支援する規格が限られている
  - n ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに対する国際規格の影響をさらに評価し、強化する必要がある
  - n ISOメンバーがジェンダーを主流におきジェンダー対応規格を開発するためにキャパシティビルディングが必要
  - n 「すべての声を聞く」を支援すべく、ISO/CSがロールモデルとなるべき

UNECE: 国連欧州経済委員会

SDG5: ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

## 議題3.3 c) ~ ジェンダーアクションプラン その2

### < 概要、主な意見 >

- n ジェンダーアクションプラン(2022-2025) / 下記を実施
  - n さらにデータ収集 / 分析
  - n バランスのとれた参加と代表(representation)
  - n ISO規格類はジェンダー対応である
  - n ISO/CSはISO内でジェンダー平等を推進するために主要な役割を果たす
  - n ISOメンバーのジェンダー平等を支援
- n 予算 kCHF 263
- n 理事会メンバーからは、以下のコメントあり
  - n そもそも女性参加が少ないので、インセンティブや平等な参加機会が必要
  - n ジェンダー対応規格に取り組んでいくにあたり、配慮すべき点が多い
  - n 代表(representation)をどう考えるか(何を代表しているか)
  - n ジェンダーをどう定義するか。

## 議題3.4 ~2021年 年次リスク評価

### < 背景 >

- n リスク登録簿
  - n 17のリスクを特定、Likelihood (発生可能性)、Consequence (影響度) で評価
  - n 軽減策と状況を記載
- n リスク管理カレンダー
  - n リスクの中間評価を四半期ごと(6月、9月、11月)に行い、理事会に提出
  - n 翌2月に、理事会がリスク登録簿の年次レビューを行い、承認
- n Q1の中間評価後、リスク選好(risk appetite)に関する議論を開始

### < 概要 >

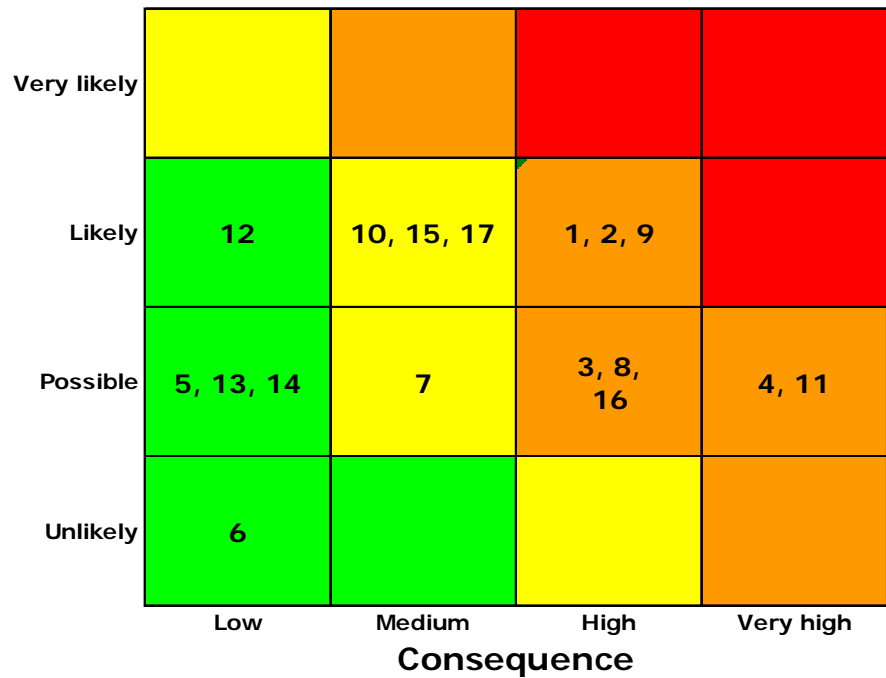
- n 2021年年次見直しの内容を承認
- n リスク選好に基づき、ターゲットとするリスクマトリックスを作成
- n CSはリスクターゲットに到達するための軽減策を提案。ただし、リスク11「外部要因によるブランドの低下」はターゲットに達するに十分な軽減策無し
- n CSで再度検討し、次回理事会で報告

		発生可能性	結果
1	特定の市場ニーズを満たせない	3	3
2	競争の激化	3	3
3	知的財産の喪失	2	3
4	専門人材の不足	2	4
5	欠陥のある規格	1	1
6	罰則及び訴訟	1	1
7	ISO資金調達でのデフォルト	2	2
8	外部団体との非効果的な協働	2	3
9	会員の団結の喪失	3	3
10	効果的でない又は誤解を招くコミュニケーション	3	2
11	外部要因によるブランドの低下	2	4
12	規制上あるいは政治上の変化	3	1
13	職員の不正行為	1	1
14	効果的でない調達及び第三者リスク（外部委託）	2	1
15	完全でない戦略展開	3	2
16	データ/情報の変更（検知/非検知）	2	3
17	重要人物及び知識の喪失	2	1

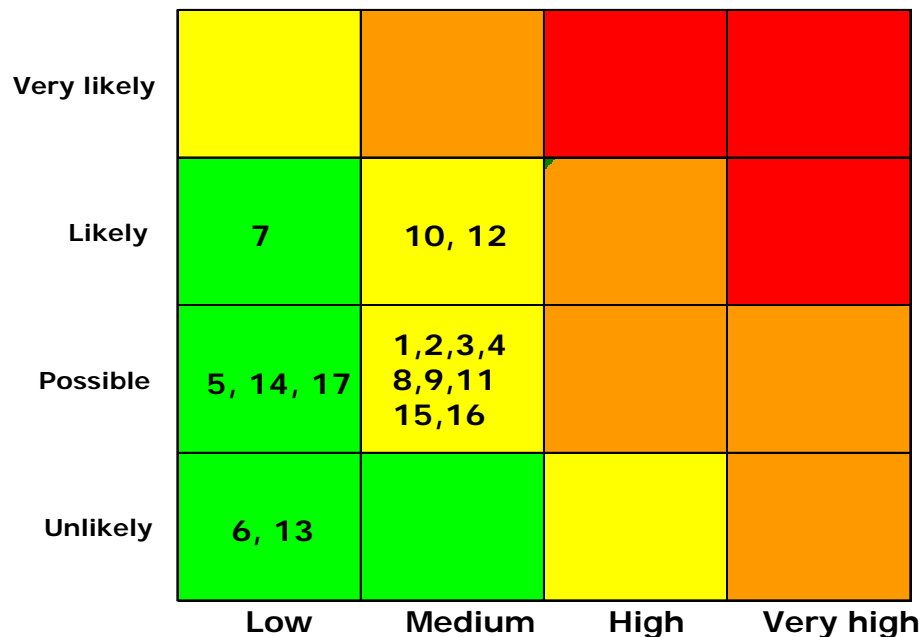
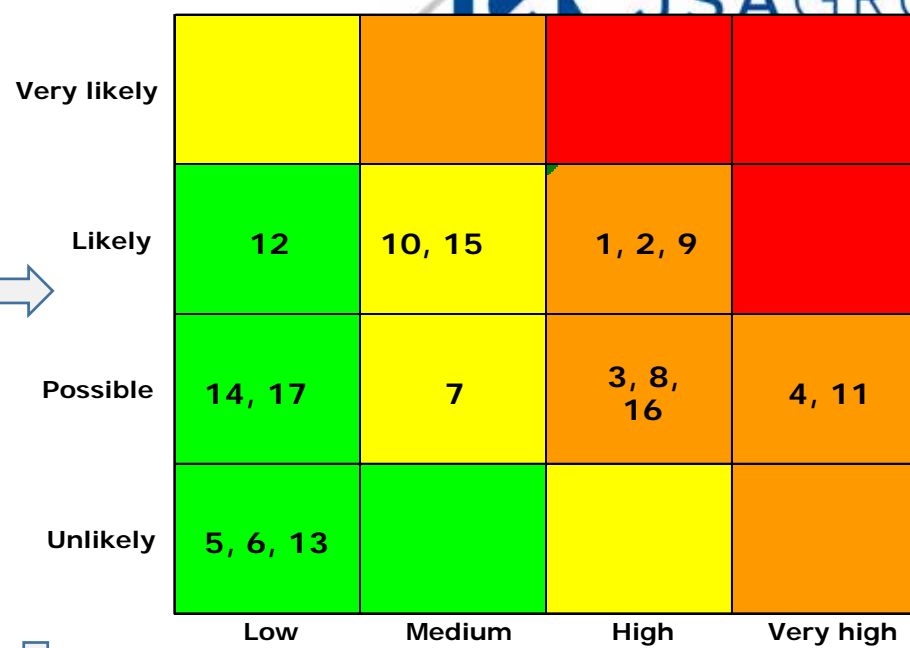
発生可能性 (likelihood): 1-Unlikely 2-Possible 3-Likely 4- Very likely  
 結果 (consequences): 1-Low 2-Medium 3-High 4- Very high



2021/Q1の中間評価



2021年次評価



リスクターゲット

## 議題4.1 ~ 2022年ISO/CS予算予測

kCHF

	22年予測	22年予算	予算との差異		21年実績	21年実績との差異	
			絶対値	%		絶対値	%
収益	44,198	41,836	2,362	6%	42,441	1,757	4%
支出	-42,577	-42,041	-536	1%	-36,879	-5,698	15%
財務収益	235	205	30	15%	641	-406	-63%
剰余	1,856	-	1,856		6,203	-4,247	-70%

○ 2022年予算に対し、収益6%増、支出1%増の予測

○ 支出増加（人件費、第三者サービスなど）。昨年は人件費を抑え、旅費/イベント費は減。今年は増える見込み

### < 主な意見 >

- n コロナ禍から経済は回復傾向にあるが、ウクライナ問題が発生。引き続き注視が必要



# 標準化ロードマップ

## - DINの取組紹介とISO/CSの開発プロセス改善プログラム

### <背景>

- n 実施計画のプログラム：「Improved Development Processes」  
「委員会戦略マネジメント」 「規格類の最適化」
- n 委員会戦略マネジメント
  - n SBPの質を上げ、マーケットトレンド/ニーズをよりよく捉え、それがロードマップとワークプログラムに落とし込まれるようにしたい(SBP: Strategic Business Plan)

### <主な内容、議論>

- n DINの取組—マルチステークホルダー—を巻き込み、マーケットニーズに合った標準化ロードマップを開発
  - n ロードマップ開発にあたっては、
    - n 戦略的標準化トピックスの選定
    - n 幅広いステークホルダー(イバーター、政策/産業の意思決定者、規格ユーザー、行政機関、産業界、等)の巻き込み。様々な観点で議論、共通の理解に達し、優先事項を設定(適宜更新)
    - n 標準化の方法論を適用する範囲を広げる。業種横断的/革新的な事項を議論する場合、これまでの標準化コミュニティでは収まらない
- n SBPの改良と幅広いステークホルダーの巻き込みの、内と外の両面での取組みにより、標準化ニーズをよりよく予測することは重要
- n 業種横断的なテーマやSMART規格への対応では水平的な取組みが必要で、既存のTC/SCの枠組みでは難しい、コミュニティの拡大は重要、何らかのテーマでパイロットを実施してはどうか

## ご参考～今後の予定

### < 理事会 >

- n 2022年6月8-9日      ストックホルム
- n 2022年9月19日      アブダビ
- n 2023年2月22-23日      ジュネーブ
- n 2023年6月      日本

### < 総会 >

- n 2022年9月22-23日(ハイブリッド形式)      アブダビ
- n 2023年9月20-21日      未定
- n 2024年9月      カルタヘナ(コロンビア)

# ご清聴ありがとうございました

## お問い合わせ

一般財団法人日本規格協会  
システム系規格開発ユニット

[kokusai@jsa.or.jp](mailto:kokusai@jsa.or.jp)